

# UDA シンポジウム「大学とセクシュアル・マイノリティ」 参加者アンケート報告

(2021年2月0日)

本報告では、2020年12月11日に開催されましたUDAシンポジウム「大学とセクシュアル・マイノリティ」に対するアンケートの結果についてまとめました。

## アンケート回答者の内訳

当日は約120名の方にご参加いただき、65名の方からアンケートに回答頂きました。アンケート回答者の内訳は以下ようになっており、大学教職員の他、学生や社会人など、様々な方にご参加いただきました。

参加者の職業等			
大学教員	23名	独立行政法人職員	2名
大学職員	13名	看護師	1名
会社員	8名	研究所勤務	1名
大学生	8名	高校生	1名
大学勤務カウンセラー	2名	大学院生	1名
合計65名（無回答4名）			

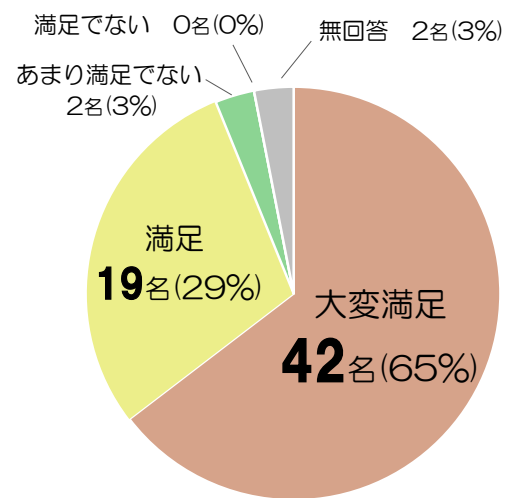
## 第1部 話題提供

シンポジウムの第1部として行われた話題提供では、アンケート回答者の90%以上の方が「満足だった」と回答しており、大学における当事者支援の現状や課題について、様々なご意見やご感想が寄せられました。以下では、その一部を掲載いたします。

### 話題提供に対する感想・意見

- 学校の規模によって対応に差があるという調査結果は非常に興味深いものだった。規模が小さい学校だと前例がないとして配慮や相談を断られるケースもあると聞く。そのような状況をどう打開していけばいいか考えなくてはならないと感じた。

## 第1部 話題提供に対する満足度



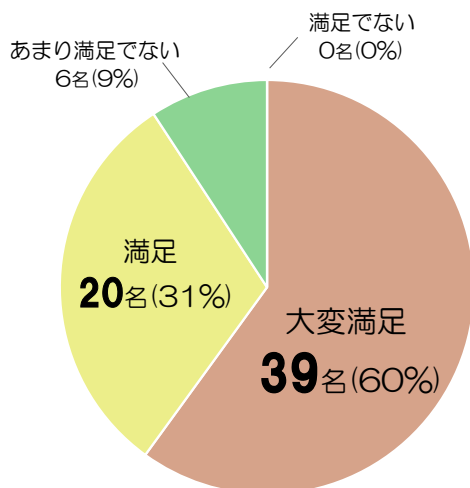
- もう少し大学内でLGBTへの対応が進んでいるのかと思っていたが、そうではない現実に驚いた。特に、私立の大学ではもっと理解が大学全体として進んでいるのだと思い込んでいたが、そうではないことにも悲しさを覚えた。
- 半数以上の大学で性別違和について配慮の要望を受けて対応していること、ハラスメントについて明記しているガイドライン等がある学校は2割にとどまること、など大変興味深いデータでした。
- 企業で性別違和に対する配慮について、具体的な対応が進んでいるところは正直少ないと思うが、参考にすべきデータだと感じました。大学でこのような調査・研究やガイドラインの横展開の動きがあるということは、企業も知ってお

くべきだと思います。全ての大学でガイドラインが作成され、それが学生たちの共通認識になっていけば、それ以下の水準にしかない企業は学生に選ばれなくなります。企業は社内環境を整える動きをさらに加速しなければいけなくなるでしょう。

## 第2部 パネル・ディスカッション

第2部に対するアンケートでも「満足だった」と回答をした方の割合は90%を超えています。またパネル・ディスカッションに対しては、大学や企業を始めとした社会全体での当事者支援に向けて、様々な立場からのご意見やご感想をいただきました。以下では第2部に対していただいた感想のうち一部を抜粋して掲載します。

### 第2部 パネル・ディスカッションに対する 満足度



### パネル・ディスカッションに対する感想・意見

- 大学の学生に対する支援などは徐々に広まってきたが、教職員に対する対応がかなり遅れていることに驚いた。どうして差が生まれてしまうのか少し気になった。
- LGBTQ の理解が大学内外で進めば居場所のな

さ、居心地の悪さを感じる人は少なくなるのではないかと思います。一人一人の意識の在り方でしょうか。誰もが過ごしやすい学びやすい場所であって欲しいと願います。

- 大学での LGBTQ+への施策は、当事者だけでなく、非当事者にとっても、「蒙を啓く」という意味で重要であり、それが、当事者にとってよりよい方向につながるとともに、さらに、マイノリティー一般への差別や無理解を減じていくことに展開していくと思っています。活動のご発展を祈念しております。
- 私の所属する学科では、宿泊を伴う野外実習が組まれています。部屋割りとか風呂、トイレをどうするかといった問題がまず頭に浮かびます。他大学での事例を知りたい気持ちで、今回参加しました。UDA で取りまとめている中にそのような事例があり、可能であれば、ぜひご教示いただきたいと思います。
- キャリアに関して私に個人的に相談にくる学生が結構います。私は民間企業で働いた経験がないので、Job Rainbow 等の就職活動支援サイトを紹介することぐらいしかできないのですが、是非企業の方々には当事者学生に対するアウトリーチ活動（大学のキャリアセンターへの情報提供など）を積極的に行ってほしいです。